

モニタッチのシステムデバイス (\$s) をご存知ですか？
このデバイスはモニタッチのステータス情報が出力されたり、一部動作の制御が行えます。
今回はシステムデバイス (\$s) の活用方法をご紹介します。

1. \$s167 (電池電圧低下の検出)

Before

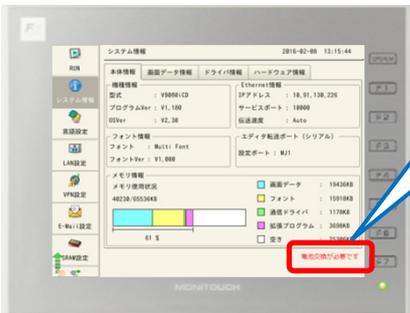
ローカル画面に切り替えないと電池の状態がわからない…

運転画面



電池電圧の情報なし

ローカル画面



電池電圧低下時、画面右下に「電池交換が必要です」と表示

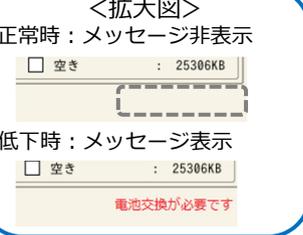
ローカル画面に切替



稼働中はローカル画面に切り替えられない…

電池の状態を確認できればいいのに…

＜拡大図＞
正常時：メッセージ非表示
低下時：メッセージ表示





After

\$s167の4ビット目を活用すれば解決できます！

例) ランプに\$s167-04を設定
(\$s167-04がON (電池電圧低下状態) の時、文字列を表示)

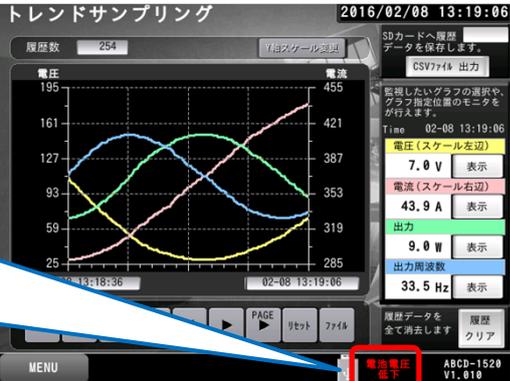
＜表示例＞

\$s167-04 (OFF) :



\$s167-04 (ON) :





＜ランプの設定例＞

- ① [スタイル] メニューで描画モードとランプデバイス等を設定します。



- ② [文字属性] メニューで「ON」の文字列を登録します。



電池の状態を運転中も確認できて便利！

2. \$\$160～166 (カレンダー情報)

\$\$160～166には、現在モニタッチ上で表示されているカレンダー情報が格納されます。

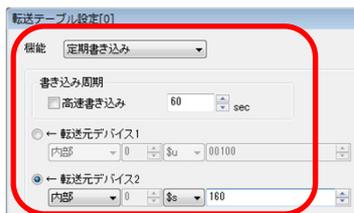
デバイスメモリ	項目	デバイスメモリ	項目
\$\$160	年	\$\$164	分
\$\$161	月	\$\$165	秒
\$\$162	日	\$\$166	曜日 (0:日、1:月・・・6:土)
\$\$163	時		

モニタッチのカレンダー情報をPLCに転送する時に使用します！

例えば、60秒ごとにカレンダー情報をPLCデバイス：WM100以降に転送する場合…

方法1：転送テーブル

- ① [システム設定] → [転送テーブル] で転送テーブル設定に入り、実行周期などを設定します。



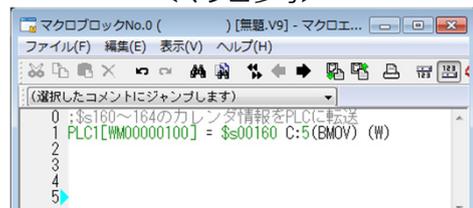
- ② [転送テーブル編集] で転送先のPLCデバイスを設定します。

No.	PLCデバイス	名称	データ形式	← 転送元デバイス1	← 転送元デバイス2
0	WM0000100		ワード	\$\$00160	
1	WM0000101		ワード	\$\$00161	
2	WM0000102		ワード	\$\$00162	
3	WM0000103		ワード	\$\$00163	
4	WM0000104		ワード	\$\$00164	

方法2：イベントタイママクロ

- ① [ホーム] → [登録項目] → [マクロブロック] にマクロを登録します。

<マクロ参考>

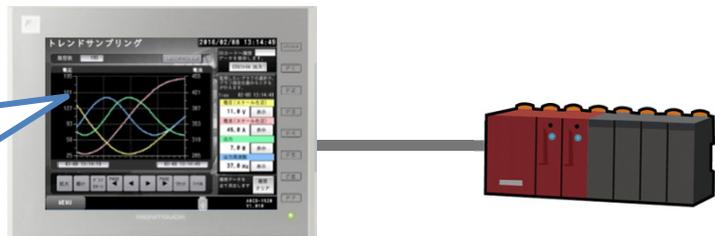


- ② [システム設定] → [マクロ設定] → [イベントタイママクロ] で実行周期などを設定します。



60秒に1回、転送動作を実行！

\$\$160 → WM100	2016 → 2016
\$\$161 → WM101	2 → 2
\$\$162 → WM102	8 → 8
\$\$163 → WM103	13 → 13
\$\$164 → WM104	13 → 14



Good



簡単にモニタッチのカレンダー情報がPLC側で取得・確認できる！



補足

システムデバイス (\$\$) について詳しくは、『V9シリーズ リファレンスマニュアル1』の「1.3 内部デバイス一覧」をご覧ください。

【連絡先】

発紘電機株式会社
モニタッチコールセンター

TEL : 0120-929-299
※ 携帯電話からは076-274-5130
FAX : 076-274-5208
URL : <http://www.hakko-elec.co.jp>